

世界は団地でできている

団地をこよなく愛し、日夜、団地について真剣に探求し続けてきたクリエイターユニット《団地団》を監修として迎え、「団地と映画」をテーマにした展示を開催いたします。

かつて団地が今ほど注目されていなかった時代から、「フィクションに登場する団地」の魅力をいち早く発見し、それを言語化して発信する活動を行ってきた団地団。その団地をめぐる言説の魅力は、映画、アニメ、ドラマ、小説、漫画などを縦横無尽に参照し、各所に登場する団地について、それぞれの知見から、好き勝手に繰り広げられていく、そうした過程にこそあるといえるでしょう。自由で、散漫で、時に宇宙レベルにも達し、ややもすると飛躍し過ぎとも思える放談の数々は、それゆえに、団地団にしか辿り着けない、唯一無二の批評世界をもたらしてくれます。この豊かな団地批評を、一人でも多くの方に届けたいと思います。

本展では、団地団が「団地映画」と名付けた諸作品に注目いたします。そうした作品群において団地はどのように描かれてきたでしょうか。数多の映像表現を、団地を軸にして観察してみると、実は、団地のイメージがいくつかのパターンに沿って変遷してきた事実が浮き彫りになってきます。そして、さらにその背景には、個々のクリエイターがそのように団地を描いた時代の必然があったことが、団地団の妙技によって炙り出されるのです。このような観点から、「地霊と設備」「侵入・脱出」「湾岸」「自然／環境」「妻たちの孤独」「子供と特殊能力」などのキーワードで団地を語る第3章は、それぞれが第一線で活躍する団地団メンバーによる団地批評のクライマックスです。ここから生まれる、新たな団地を主人公とする一大スペクタクルを、ぜひご堪能ください。

団地団

大山 顕 (おおやま・けん)

1972年生まれ。写真家／ライター。工業地域を遊び場として育つ。千葉大学工学部卒後、松下電器産業株式会社（現 Panasonic）に入社。シンクタンク部門に10年間勤めた後、写真家として独立。団地研究者としての顔も持つ。執筆、イベント主催など多様な活動を行っている。著書に『ショッピングモールから考える』（東浩紀・大山顕 著、幻冬舎新書、2016）など多数あり。

佐藤 大 (さとう・だい)

19歳の頃、放送構成・作詞の分野でキャリアをスタート。その後、ゲーム業界、音楽業界を経て、現在はアニメの脚本執筆を中心に、さまざまなメディアでの企画、脚本などを手がけている。2007年、ストーリーライダーズ株式会社を代表取締役として設立。代表作に『カウボーイビバップ』『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』『サムライチャンプルー』『交響詩篇エウレカセブン』『サイダーのように言葉が湧き上がる』『映画ドラえもののび太の宇宙小戦争 2021』『ぼくらのよあけ』『ポケットモンスター』など多数あり。

速水健朗 (はやみず・けんろう)

ライター・編集者。メディア史や都市、ショッピングモールなどのテーマであれこれを執筆。物心ついて以降の人生で住んだことのある住宅は、団地（社宅タイプ）5年、一軒家8年、木造アパート4年、賃貸マンション8年、分譲マンション19年。最高階位は、10階（14階建てマンション）。主な著書、『東京どこに住む 人生格差と住所格差』（朝日新書）、『1973年に生まれて 団塊ジュニア世代の半世紀』（東京書籍）など。

稲田豊史 (いなだ・とよし)

1974年生まれ。ライター、編集者。新卒でギャガ・コミュニケーションズ（現ギャガ）に入社。その後、キネマ旬報社でDVD業界誌の編集長、書籍編集者を経て2013年に独立。主な著書に、新書大賞2023第2位の『映画を早送りて観る人たち』（光文社新書、2022）、『ぼくたちの離婚』（角川新書、2019）、『ボテトチップスと日本人』（朝日新書、2023）がある。キネマ旬報社時代には『団地団 ベランダから見渡す映画論』（キネマ旬報社、2012）の企画、編集も担当した。

山内マリコ (やまうち・まりこ)

1980年生まれ。小説家。富山県の住宅街で育つ。郊外的大型書店&レンタルビデオ文化によって映画と小説に目覚め、大阪芸術大学映像学科に進学。2008年「女による女のためのR-18文学賞」読者賞を受賞し2012年『ここは退屈迎えに来て』でデビュー。団地団の第1回イベントに客として参加していた縁で途中加入。映画化された『あのこは貴族』、近刊『マリリン・トルド・ミー』『逃亡するガール』など、地方都市で生きる女性を主なテーマとする。

妹尾朝子 (せお・あさこ)

二人組漫画家“うめ”の作画担当。2001年『ちゃぶだい』で第39回ちばてつや賞一般部門大賞を受賞。代表作は、ゲーム業界を描いた『東京トイボックス』シリーズ。シリコンバレー IT群雄割拠『スティーズ』（原作：松永肇一）、育児ハックマンガ『ニブンノイクジ』など。現在は、日本の第一次南極観測隊のタロジロたちは実は人狼だった、という大胆なIFをベースにした歴史改変SF『南緯六〇度線の約束』を小学館ビコミにて連載中。

2025.3.12 水—8.24 日

高島屋史料館 TOKYO 4階展示室（東京都中央区日本橋2-4-1）

開館時間＝10:30－19:30 休館＝火曜日（祝日の場合は開館し、翌日休館）、8月20日（全館休業）

主催＝高島屋史料館 TOKYO 監修＝団地団（大山顕、佐藤大、速水健朗、稲田豊史、山内マリコ、妹尾朝子）

グラフィックデザイン＝原田祐馬、山副佳祐、大隅葉月（UMA /design farm） 展示デザイン＝座二郎、天本みのり

担当学芸員＝海老名熱実（高島屋史料館 TOKYO）

高島屋史料館
TOKYO

事件の起こる場所

「もしも亡くなったときは、
どうやって下まで降ろすんですか？
あのエレベーターじゃ棺桶も入らないし」

——映画『家族ゲーム』（1983）

団地住人の女（戸川純）が世間話として語るセリフ。初期の団地には、「人の死」を想定していないという批判がされていた。現代では、死を迎えるのは病院、葬儀の場所は葬儀場というのが当たり前だが、かつてはどちらも自宅で行われるイベントだった。

団地妻は欲求不満

「あなたのこと団地中の
人に知らせてやるわ」

——映画『団地妻屋下りの情事』（1971）

生まれ育った故郷

郊外に突然現れた
白い巨大な壁

「団地で生まれ、
団地に死す」

——漫画エッセイ『団地のふたり 第6話』（2024）

特撮の
壊され役

55歳の野枝（小泉今日子）と奈津子（小林聡美）は、同じ団地で生まれ育った幼なじみ。野枝はバツイチの出戻りで両親と団地に3人暮らし、奈津子はパートナーとの長き同棲を解消して団地に戻ってきてのひとり暮らし。ある日、野枝の母と奈津子は野枝の部屋で「乳がん超音波検査結果通知D・要精密検査」という書類を発見してしまう。その書類が入っていた封筒に、野枝の手書きで書きつけられていた文言がこれ。「団地はゆりかごから墓場まで」を地で行く野枝の“覚悟”が垣間見える魂の一筆だが、「笑ってしまった」という視聴者もそこそこ多かった……らしい。

「お前たちはまたあんなときのような
生活がしたいのか。雨漏りのするバラックで
雑炊ばかり食ってた生活が！」

——映画『やまやな獣』（1962）

コメディ色の強い本作で、突然シリアスに語られる父親（伊藤雄之助）のセリフ。戦後の貧乏生活には2度と戻りたくない、リッチな暮らしのためなら後ろ指をさされる生活でもかまわないという覚悟が伝わる。舞台の晴海高層アパートは、当時でも珍しい高給層向けの団地だった。

夫婦の愛の巢

「Somebody down under you.
Somebody up over you.
It's people here. There's lights
here and there's life here.」

——映画『The Pruitt-Igoe Myth
（プルーイット・アイゴーの神話）』（2011）

プルーイット・アイゴーはアメリカ合衆国ミズーリ州セントルイスにあった団地。1956年に完成したが、団地全体がスラム化し、76年にすべて爆破解体された。この日は「モダン建築が死んだ日」とまで言われた。団地という建造物は人々を抑圧するもの、というわけだ。しかし2000年代から再評価の気運が高まる。この作品では計画の失敗はセントルイスの経済悪化など外的要因にあったことが示されている。そして元住民たちのインタビューでは、団地の思い出が語られる。これはそのひとつ。詩のような一節。

新しい家族像

わたしの宝物
フジテレビ(テレビドラマ)
2024

アフタースクール
監督:内田けんじ
2007

大市民
NHK(テレビドラマ)
1966

白と黒
横溝正史(小説)
1960～61

市子
監督:戸田彬弘
2023

団地妻 昼下りの情事
監督:西村昭五郎
1971

お早よう
監督:小津安二郎
1959

秋日和
監督:小津安二郎
1960

彼女と彼
監督:羽仁進
1963

ぼえる犬は噛まない
監督:ボン・ジュノ(韓)
2000

喜劇 駅前団地
監督:久松静児
1961

ガールフッド
監督:セリーヌ・シアマ(仏)
2014

下町の太陽
監督:山田洋次
1963

彼女について
私が知っている二、三の事柄
監督:ジャン＝リュック・ゴダール
1966

秋刀魚の味
監督:小津安二郎
1962

PLAN75
監督:早川千絵
2022

若草物語
監督:森永健次郎
1964

家族ゲーム
監督:森田芳光
1983

ピカ☆ンチ
LIFE IS HARD だけどHAPPY
監督:堤幸彦
2002

ピカ☆ンチ
LIFE IS HARD だからHAPPY
監督:堤幸彦
2004

しとやかな獣
監督:川島雄三
1962

ジオラマボーイ
パノラマガール
作:岡崎京子(マンガ)
1988

ジオラマボーイ
パノラマガール
監督:瀬田なつき
2020

リバーズ・エッジ
作:岡崎京子(マンガ)
1993～94

ジオラマボーイ
パノラマガール
監督:瀬田なつき
2020

花とアリス殺人事件
監督:岩井俊二
2015

人生は、時々晴れ
監督:マイク・リー(英)
2002

星合の空
TBS(テレビアニメ)
2019

ピンクとグレー
監督:行定勲
2015

日常／平凡

サザンウインドウ・
サザンドア
作:石山きやか(マンガ)
2016

サイダーのように
言葉が湧き上がる
監督:イシグロキョウヘイ
2020

中学生円山
監督:宮藤官九郎
2013

私は二歳
監督:市川崑
1962

どこまでもいこう
監督:塩田明彦
1999

イノセント
監督:エスكيل・フォクト
(ノルウェー／デンマーク／フィンランド／スウェーデン)
2021

ノーコン・キッド ～ぼくらのゲーム史～
原案:佐藤大／テレビ東京(テレビドラマ)
2013

かもめ団地のむこうがわ
作:国松俊英(小説)
1985

放浪息子
監督:志村貴子／フジテレビ(テレビアニメ)
2011

三丁目が戦争です
作:筒井康隆／絵:永井豪(絵本)
1971

Ricky リッキー
監督:フランソワ・オゾン(仏／イタリア)
2009

よふかしのうた
原作:コトヤマ／フジテレビ(テレビアニメ)
2022

子供と 特殊能力

隔離した コロニー

海に眠るダイヤモンド
TBSドラマ(テレビドラマ)
2024

コンクリート・ユートピア
監督:オム・テファ(韓)
2023

フロリダ・プロジェクト
真夏の魔法
監督:ショーン・ペイカー(米)
2017

第34話 宿命の出会い
(機動戦士ガンダム)
名古屋テレビ(テレビアニメ)
1979

団地ともお
作:小田原(マンガ)
2003～19

ラブ・マスターX
作:安野モヨコ(マンガ)
1997～99

レディ・
プレイヤー1
監督:スティーヴン・スピルバーグ
2018

第伍話 レイ、心のむこうに
(新世紀エヴァンゲリオン)
テレビ東京(テレビアニメ)
1995

プレイボーイ団地
童夢
作:安野モヨコ(マンガ)
2002

クロユリ団地
監督:中田秀夫
2013

第25話
お家がほしいの
(泣いてたまるか)
TBS(テレビドラマ)
1966

仄暗い水の底から
監督:中田秀夫
2002

あの夏、いちばん静かな海。
監督:北野武
1991

地霊と設備

平成狸合戦ぽんぽこ
監督:高畑勲
1994

ザ・ファブル 殺さない殺し屋
監督:江口カン
2021

今際の国のアリス
(シーズン1 エピソード2)
Netflix(配信ドラマ)
2022

みなさん、さようなら
監督:中村義洋
2012

みなさん、さようなら
作:久保寺健彦(小説)
2007

海よりもまだ深く
監督:是枝裕和
2016

団地のふたり
NHK(テレビドラマ)
2024

虚無をゆく
作:水上悟志(マンガ)
2017

団地
監督:阪本順治
2016

第21話 東京ニュータウン沈没
(ウルトラマンタロウ)
TBS(テレビドラマ)
1973

アスファルト
監督:サミュエル・ベンシェトリ(仏)
2015

GAGARINE ガガーリン
監督:ファニー・リアタール、
ジェレミー・トルイユ(仏)
2020

エスパーもさらわれる?
(エスパー魔美)
作:藤子不二雄(藤子・F・不二雄)(マンガ)
1980

ぼくらのよあけ
監督:黒川智之
2022

ぼくらのよあけ
作:今井哲也(マンガ)
2011

雨を告げる漂流団地
監督:石田祐康
2022

アタック・ザ・ブロック
監督:ジョー・コーニッシュ(英)
2011

第47話 あなたはだあれ?
(ウルトラセブン)
TBS(テレビドラマ)
1968

ゴールデンランパー
監督:中村義洋
2010

ザ・ホード-死霊の大群-
監督:ヤニック・ダアン、
バンジャマン・ロシェ(仏)
2010

コロッサル・ユース
監督:ペドロ・コスタ(ポルトガル／仏／スイス)
2006

THE FIRST SLAM DUNK
監督:井上雄彦
2022

憎しみ
監督:マチュー・カソヴィッツ(仏)
1995

DEVILMAN crybaby
Netflix(配信アニメ)
2018

パリ13区
監督:ジャック・オーディアル(仏)
2021

サウダーヂ
監督:富田克也
2011

真犯人フラグ
日本テレビ(テレビドラマ)
2021～22

ディーバンの闘い
監督:ジャック・オーディアル(仏)
2015

パティモン5 望まれざる者
監督:ラジ・リ(仏／ベルギー)
2024

侵入・脱出

自然／環境

はちどり
監督:キム・ボラ(韓、米)
2018

耳をすませば
監督:近藤喜文
1995

人生フルーツ
監督:伏原健之
2016

猫たちのアパートメント
監督:チョン・ジェウン(韓)
2022

桜の樹の下
監督:田中圭
2015

東京オリンピック2017
都営霞ヶ丘アパート
監督:青山真也
2020

芝園団地に住んでいます
作:大島隆(ルポルタージュ)
2019

団地の 消滅と再生

猫